

店先の会話まで漫才みたい。
しかも、ちゃっかり値引き交渉までしてる！

日本はもともと資源が少ないんだから、
このちゃっかり精神、
見習ったほうがいいんじゃない？



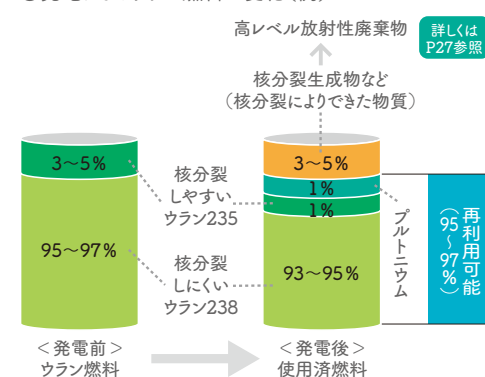
日本では原子力発電の燃料の
約95%がリサイクルできるねん。

原子力発電に使用されたウラン燃料には
再利用できるウランやプルトニウムが95～97%残っています。
日本ではそれらを取り出し、再び利用します。
この流れを原子燃料サイクルといいます。

原子力発電所で使い終わった燃料は、
再処理することで再び使用できます。

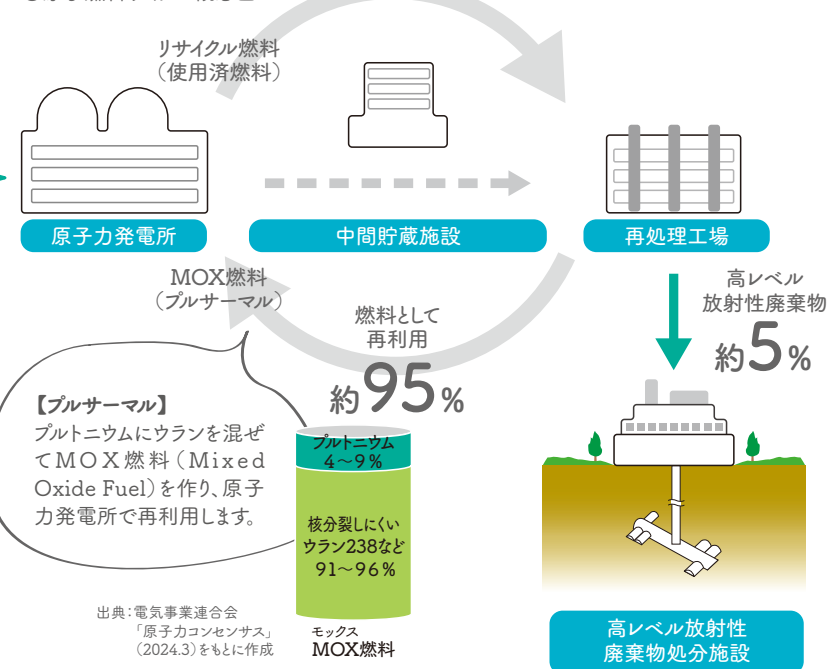
日本では、資源の有効利用、そして、高レベル放射性廃棄物の量を減らしたり有害度を下げるなどの観点から、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを再利用する原子燃料サイクルを推進しています。
また、回収されたプルトニウムにウランを混ぜて燃料を作り、再び原子力発電所で使う「プルサーマル」の導入も進めています。これらは、余剰プルトニウムを持たないという国際公約を守る意味でも有効です。

●発電によるウラン燃料の変化(例)



出典：電気事業連合会「原子力コンセンサス」(2024.3)をもとに作成

●原子燃料サイクル概念図



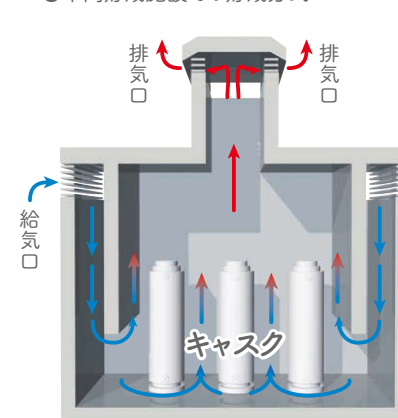
使用済燃料は将来の資源として
再処理されるまでの間、
一定期間貯蔵されます。

使用済燃料は原子力発電所内の使用済燃料プールで一定期間保管してから、青森県六ヶ所村の再処理工場へ運ばれます。しかし、発電所内での保管には限りがあるため、一時的な保管場所が必要になります。それが「中間貯蔵施設」です。この施設を設置することで、将来にわたって発電所を安定的に運転することができます。

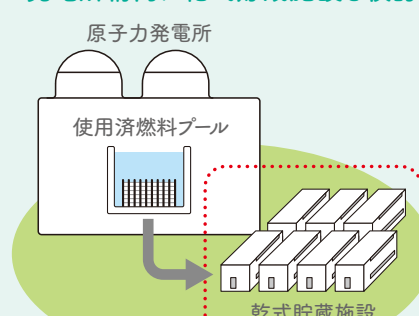
中間貯蔵施設では、
電気や水を使わんと、
空気の流でキャスクを
自然冷却するねん。



●中間貯蔵施設での貯蔵方式



●発電所構内に乾式貯蔵施設を検討



将来、発電所からの使用済燃料の搬出に備えて、発電所構内に乾式貯蔵施設の設置を検討しています。この施設は、中間貯蔵施設への搬出をより円滑にするために設けられ、搬出までの間、電源を使わずに安全性の高い方式で保管できるよう設置するものです。(美浜・高浜・大飯全体として2030年頃竣工予定)

押さえておきたいワードはこれ！

再処理工場

使用済燃料から再利用可能なウランとプルトニウムを取り出すための施設。

「再処理」についてはこちらから
リンク先：日本原燃(株)HP



中間貯蔵施設

もっと知りたい方は
こちらから

